

家族らに囲まれ長寿を祝う 佐々木ハルコさんが満100歳を迎える

1月22日、佐々木ハルコさん(7区)が満100歳の誕生日を迎えられました。自宅で家族や地元関係者が見守る中、青木町長から花束や記念品の秀衡塗の漆器の贈呈を受け、長寿を祝福されました。

佐々木さんは、健康でいるために歩くことを心掛けてきたといい、「今後も自分でできることは自分でしていきたい」と元気に話し、家族らのたくさんの祝福に笑顔で応じていました。



中東北の物産をPR 4市町自慢の特産品を仙台市で販売

平泉町、一関市、宮城県栗原市、登米市など主催の「ハートでつながる中東北の観光と物産展」は1月23日から28日まで仙台市青葉区の東北電力グリーンプラザで開かれました。同展は、観光分野などで広域連携する4市町の共同事業で、物産販売を兼ねて観光PRを行う取り組みとして初めて企画されました。

会場には大勢の来場者が詰め掛け、どぶろくやシードル、平泉駄菓子などを買い求めていました。

日常のボランティアを振り返る 平泉町男女共同参画講演会

平泉町男女共同参画講演会(平泉男女共同参画サポーターの会主催)が1月27日、平泉町役場で開催されました。

県ボランティア団体連絡協議会長の加藤隆男さんが「私のボランティア日記」と題して講演。佐藤さんは「女性が、女性を中心にして、女性のやり方でボランティア・住民活動を展開することが大事。女性がつながればまちが変わる」と、ボランティア・住民活動が成功する方法などについて話していました。



親子でオリジナルの椅子を作る 平泉ライオンズクラブ親子工作教室

1月28日、平泉ライオンズクラブが主催する「親子工作教室」が平泉保育所で行われました。参加者たちは、平泉ライオンズクラブ会員に教わりながら、金づちの音を響かせ、オリジナルの椅子作りに取り組みました。完成したオリジナルの椅子は卒園式で使用されます。

同クラブ瀧澤順昭会長は「ものづくりを通じて、人や物に感謝する心や想像力豊かな生きる力が育まれてほしい」と話していました。



春の藤原まつり情報

義経公役に
俳優の **磯村勇斗** さん

5月3日に行われる春の藤原まつり「源義経公東下り行列」の源義経公役に、俳優の磯村勇斗さん(25歳)が扮することが決まりました。

磯村さんは静岡県出身。俳優としてテレビドラマや映画に多数出演し、活躍しています。

◎生年月日/1992年9月11日

◎主な出演作品

【テレビドラマ】

▷仮面ライダーゴースト(2015~2016年、テレビ朝日)

…アラン/仮面ライダーネクロム(声)役

▷連続テレビ小説「ひよっこ」(2017年、NHK)…前田秀俊役

【映画】

▷覆面系ノイズ(2017年、松竹)…黒瀬歩(クロ)役

【CM】

▷大塚製薬「オロナミンC」(2016年)

▷プレイステーション「New みんなのGOLF」(2017年)

放射線量などの測定状況

問い合わせ先

▷放射線全般…放射線対策室 ☎46-2125

▷給食食材測定…教育委員会 ☎46-5576

▷農産物測定…農林振興課 ☎46-5564

<2月の定点地点放射線量測定結果>

毎月測定している公民館・小学校などの定点地点(町内33カ所)の空間放射線量測定結果については、全測定地点において、国の除染基準である0.23マイクロシーベルト/時を超える地点はありませんでした。

※無量光院跡については工事中のため未測定

<学校給食食材の測定結果>

学校や保育所で使用・提供される給食食材や給食の放射性セシウムを測定した結果、全ての食材、学校給食で不検出の結果となりましたので、安全が確認されています。

▷食材測定品目(産地)

ジャガイモ(平泉)・リンゴ(長島)

▷測定日は1月17日~2月7日

<農産物の放射性物質検査を実施しています>

町では、町内産農産物を対象に、NaIシンチレーション検出器を使用した放射性物質検査を実施しています。検査を希望する人は、農林振興課までお問い合わせください。

vol.8

平泉・一関・奥州
3市町合同企画

東稲山麓地域の世界農業遺産認定に向けて

問い合わせ先
農林振興課 ☎46-5564

東稲山麓地域の世界農業遺産認定に向けた取り組みや地域の活動などを紹介します。

【奥州市生母地区の住民アンケート結果】

生母地区で昨年8月に実施された住民アンケートの結果を紹介します。

このアンケートは、住民の声を生母地区の10年後に向けた取り組みに生かそうと考え、世帯ごとではなく、中学生以上全員の地区住民を対象として実施したものです。

アンケートには、対象者約1,800人の59.6%に当たる約1,100人が回答しました。

アンケート結果を見ると、10年後に向けて必要な取り組みについては、ほとんどの世代から「子育て支援」や「高齢者生活支援」の取り組みが必要との意見が多く出されました。また、「買物をする場所」や「若者が集まれる場所」が欲しいとの声も多く寄せられた一方で、「一人暮らしが増えてきている

ので防犯面で不安だ」「車に乗れなくなったところにも行けなくなる」など、将来に向けた不安の声も寄せられました。

生母地区では、今回のアンケート結果を基に、今後、どのような取り組みを行うか検討していく予定としていますが、東稲山麓地域世界農業遺産認定推進協議会では農村活性化の優れた事例を学ぶ勉強会を開催するなど、取り組みを応援していくこととしています。